時事新報

アルミーニヤ問題

アルミーニヤ事件とは昨年秋の頃亞細亞土耳其のアルミーニヤに於て其不規則兵が亂暴を働き數多の耶蘇教徒を虐殺したるより起りたる騒擾にして英佛露の三國は人道の爲め默視するを得ずして直ちに土耳其政府に迫り歐洲委員の監督の下に同地方の政治を改革す可しと要求すると同時に各々兵威を示して其要求を實行せしめんとすれども土政府は容るゝが如く又容れざるが如く曖昧の間に時日を空過して兎角要領を得ざるのみか近來砲臺を檢閲し兵を徴し水雷敷設の用意を爲すなど穏かならざる擧動ありて諸強國の運動も一層活氣を增し近着の電報に據れば伊太利の艦隊はサロニカにわたる英國艦隊に加はらんが爲めレヴァントへ出發す可き命令を受けたりと云ひ或は露西亞、墺太利も同じくレヴァントへ軍艦を派遣したりと云ひ又或は此問題を協議せんが爲め墺都維納に列國會議を開く可しと云ふなど事態漸く切迫し來れるものゝ如し蓋し土耳其は垂死の國にして諸強國の強を以て之に臨むは恰も千斤の石を以て卵を壓するが如くなれば如何なる要求も唯々諾々の外なき筈なるに事の實際に於て然らざるは何故なるかと云ふに土耳其を扶けて東歐に於ける英の藩屏と爲し以て露の南進に備へんとするは英國年來の政略にして其趣は猶は支那を扶けて極東に於ける英の藩屏と爲し以て露の南下に當らしめんとしたるが如し左れば今回のアルミーニヤ事件に付ても威怖の上よりは酷しく土耳其を懲戒せんと欲すれども利害の點よりは餘り嚴重に之を脅迫して動搖せしむるを望まざるの意味もなきに非ざる可し而して露西亞は如何と云ふに若し公然兵を以て侵略するみと能はざるときは内々隱微の政略を施して己が野心を抱ける其國を籠絡し以て自ら利する所あらんとするは其得意とする所にして英佛同盟軍の事ありしときには此手段を以て黑龍江地方を取り日清事件に乘じては同じ筆法を活用して殆んど支那を其保護國と爲したればアルミーニヤ事件に付ても表面は英國と共に改革を土耳其に迫れども内實は或は得意の手段を弄して土耳其を籠絡せんと試みつゝあるに非ざる乎若しも果して然らんには土耳其の上に加へらるゝ壓力は頗る重きが如くにして其實土耳其の感ずる所甚だ輕きを知る可し然らば此問題の前途は如何と云ふに英國は近年深く爪牙を藏めて外に活潑の運動を試みざりし爲め支那に於ける權力も露西亞に奪はれて國勢漸く不滿の色を現はし來れる際なれば或は此事件を好機として大に奮發し土耳其帝國の權力を掌握して東亞に失ひし所のものを東歐に收めんと欲するやも知る可らず而して露西亞は今極東に驕足を伸べんとして兵力をも亞細亞の東邊に集めたれども土耳其に對して眞志を抱くは一朝一夕の事にわらずして只管機會の到るを待つものなれば他國にして土耳其方面に動かば露國何とて躊躇す可き全力を擧て相爭はんと欲するは勿論にして他國が一歩を進むれば露國は二歩も三歩も進む可し斯て事情は次第々々に切迫して遂に破裂するやも知る可からざれども各々破裂するに至れば獨逸、佛蘭西、墺太利も各々己が分け前を得んと欲して[illegible]に相爭ふは勿論にして歐洲全體の大動亂と爲るは明白なれば或は危機一髮して平和の終局を見るに至らん歟要するに事の前途は未だ容易に豫言するを得ざれども其成行き如何は實に歐洲全體の興亡に關するのみならず亦極東の安危に直接の關係あるものなれば東洋人も對岸の火災視す可らず若しも此問題にして平和に落着せん歟極東に野心を抱くものは後顧の憂を免かれて東邊の一方に力を集め其風波はいよ〳〵荒きに從て我日本國も次第に困難を感ず可しと雖も之に反していよ〳〵危急破裂の不幸に至らんか何れの國も東歐の爭奪に忙はしくして復た他を顧るの遑なく日本は自から隙日月を得て自から爲す所ある可し土耳其の事は一進一退共に日本國民の深く注目す可き所なる可し

雜報

○汽車電車衝突の詳報

去る十九日午後五時五十分頃京都府紀井郡深草村字深草の竹田街道なる奈良鐵道と京都電氣鐵道との線路交叉點に於て電氣鐵道の第六號電車と奈良鐵道の上り列車と衝突し電車の乘客に即死三名、重傷五名、輕傷十五名を生じたる顚末を聞くに奈良鐵道列車は同日午後五時四十九分伏見驛より發して京都に向ひ前記の竹田街道を以て卵を壓するが如くなれば如何なる要求も唯々諾々の外なき筈なるに事の實際に於て然らざるは何故なるかと云ふに土耳其を扶けて東歐に於ける英の藩屏と爲し以て露の南進に備へんとするは英國年來の政略にして其趣は猶は支那を扶けて極東に於ける英の藩屏と爲し以て露の南下に當らしめんとしたるが如し左れば今回のアルミーニヤ事件に付ても威怖の上よりは酷しく土耳其を懲戒せんと欲すれども利害の點よりは餘り嚴重に之を脅迫して動搖せしむるを望まざるの意味もなきに非ざる可し而して露西亞は如何と云ふに若し公然兵を以て侵略するみと能はざるときは内々隱微の政略を施して己が野心を抱ける其國を籠絡し以て自ら利する所あらんとするは其得意とする所にして英佛同盟軍の事ありしときには此手段を以て黑龍江地方を取り日清事件に乘じては同じ筆法を活用して殆んど支那を其保護國と爲したればアルミーニヤ事件に付ても表面は英國と共に改革を土耳其に迫れども内實は或は得意の手段を弄して土耳其を籠絡せんと試みつゝあるに非ざる乎若しも果して然らんには土耳其の上に加へらるゝ壓力は頗る重きが如くにして其實土耳其の感ずる所甚だ輕きを知る可し然らば此問題の前途は如何と云ふに英國は近年深く爪牙を藏めて外に活潑の運動を試みざりし爲め支那に於ける權力も露西亞に奪はれて國勢漸く不滿の色を現はし來れる際なれば或は此事件を好機として大に奮發し土耳其帝國の權力を掌握して東亞に失ひし所のものを東歐に收めんと欲するやも知る可らず而して露西亞は今極東に驕足を伸べんとして兵力をも亞細亞の東邊に集めたれども土耳其に對して眞志を抱くは一朝一夕の事にわらずして只管機會の到るを待つものなれば他國にして土耳其方面に動かば露國何とて躊躇す可き全力を擧て相爭はんと欲するは勿論にして他國が一歩を進むれば露國は二歩も三歩も進む可し斯て事情は次第々々に切迫して遂に破裂するやも知る可からざれども各々破裂するに至れば獨逸、佛蘭西、墺太利も各々己が分け前を得んと欲して[illegible]に相爭ふは勿論にして歐洲全體の大動亂と爲るは明白なれば或は危機一髮して平和の終局を見るに

去る十九日午後五時五十分頃京都府紀井郡深草村字深草の竹田街道なる奈良鐵道と京都電氣鐵道との線路交叉點に於て電氣鐵道の第六號電車と奈良鐵道の上り列車と衝突し電車の乘客に即死三名、重傷五名、輕傷十五名を生じたる顚末を聞くに奈良鐵道列車は同日午後五時四十九分伏見驛より發して京都に向ひ前記の竹田街道を横ぎらんとせしに急行せしめ伏見警察署にても此報を聞くや署長は巡査醫師等を隨へて現場に臨み奈良鐵道會社よりも高橋伏見驛長等出張し且つ伏見警察署よりは京都地方裁判所及び警察部へ急報したれば田中警部長江間豫審判事等も出張し來り伏見警察署は當直非直の巡査總出にて臨時出張所を深草村圓光寺に設け負傷者は伏見町字榎の來迎寺及び實國寺に昇入れて治療を加へ即死者と重傷者は深草村役場に送るなど一時は非常の混雜を極めたるが檢視の終りしは翌二十日の午前四時頃なりし即死者の姓名は左の如し

伏見町字新中戸江藤吉長女　ヨチ（十四年）

機關車にて壓死

伏見町字帶刀高橋龜次郎母　ノブ（六十年）

機關車にて右腕挫折

大阪市東堀安土屋町南入　池永治七（三十八年）

機關車にて前額挫傷

電車運轉手奥田幸次郎、車掌大杉伊太郎、奈良鐵道の運轉手清口市郎、車掌赤塚敬藏の諸氏は何れも一應警官の訊問を受けしも其曲直は裁判所の審問を經るにあらざれば明白ならざるよし今此事變に付双方の申分を聞くに奈良鐵道會社員は曰く同列車は五時四十五分に伏見を發し京都に向ひたる處電車は京都より進行し來り竹田口踏切の兩線路交叉の場所（近き來りしかば非常汽笛信號をなし且つ信機燈をも點燈したるにも拘ら

ず電車は其速力を遽めて交叉の場所に進行し來り遂に衝突せしものなれば全く電車の方に於て惹ての契約に背きたるものなりと又電氣鐵道會社員は曰く奈良鐵道列車は五時四十九分を以て伏見を發車したりと云ふも電車は五時三十分に七條を發したるものなれば少しく時間の符合せざる處あり又兼て兩會社交渉の結果内務大臣の許可を得て双方の間に結びたる契約書第一條には交叉場所に門戸を設け汽車發車十分前より閉づる事及び信號燈を點ずる事等の規定あり然るに奈良鐵道は當時此門戸を鎖さず又信號燈を點じ置かざりしは同鐵道會社の契約違犯なれば其責同會社にありと兎に角死者負傷者の手當其他の費用に就ては電氣鐵道會社より奈良鐵道會社に向て交渉する筈なるに付若し奈良鐵道にして此協議に應ぜざれば遂に民事訴訟を起すに至るべしと云ふ

○土方宮内大臣の大礼行

宮内大臣土方子爵は一昨日午後四時十分新橋發の汽車にて大礼に參ぜらるゝ由にて横濱停車場に入りて晩餐を終りし後直ちに伊藤總理を野毛横濱に訪ひ對談二時間餘にして即夜歸京したるが右は總理が靜に病を養はんとするの意見に對し長き逸の御沙汰を傳ふるが爲めならんと云へり

○明治の石川五右衛門（續）

清司、西國へ逃走の事

尾花咲く那須野原は秋早く十月半ば霜滿ちて枯木も花の紅葉時野風身に染む曉の星を戴き我背戸に立つは誰が子ぞ、世を忍び人を忍ぶ曲者の果は野晒、耻晒し業晒しなる大賊も流石に人の兒なりけり、都界隈捷家なく拠持つ足を曳摺りて爰迄で潜み來れるは唯愛情の絆のみ、如何せ一度は身の耻を柿色衣に替ゆるぞと度胸は豫て極めながら唯氣に罹る妻妾の身の置き所定めたき、一念よりして一夜の中に東京去つて三十餘里吉（四十八年）を音信來りしものなるが、此庄吉といふ奴も我娘に優る曲者にて清司の素情を知るが故、觀分能くみを來りたれ、厭き世界に東京のみが都に非ず盜人の童蒙の場所は故郷を遠く離れて上方邊り人知れぬ地を善かるを可し、夫れには是れより妾を替へて香取に預けし妻妾始め我等兩人打連れ立ち旅商人に妾を扮裝し本街道を往かずして海路を廻らば如何に覩き探偵も氣の附かぬ法なりもありとて其夜暫く密議を遂げしが清司は素々惡ふ樣、假令ひ婦人の同伴にても惡玉のみの道行は素人の目に際立ちて結句甚だ惡しかる可しみれには善き智惠なきかと言へば庄吉答へて如何にも吾に分別あり其方法は庄吉の叔父に當れる水呑百姓にて村上傳十郎といふ無賴漢上り、年寄て今は眞面目の老夫婦此太田原の近在にて片岡村に住居る故此老夫婦を偽誘出して同行に加へなば老人交りの出稼ぎと人は見る可し世になき不敵の賊と知りて娘を妾に出す此庄吉斯程の事に智慧なくては盜賊の面が立たぬと乘地になりて勸め立てしに清司も意々其氣を爲りしが既に香取の近所へは其筋の手も廻り居る故清司自身に妾妾を迎へに往くは危險なりんと其明けの朝小野崎庄吉自ら香取へ往くに決し夜の明けぬ間に大田原を發足して香取の吉祥寺を訪ひ娘のキヨと清司の妾なる渡邊タカを連出し密かに樣子を物語りて水戸の湊へ伴ひ去れり、左れば又清司は庄吉を出し遣りし其日の夕刻に至り歸て庄吉の就へし新片岡村の村上傳十郎を尋ね往きて老夫婦に對面し

の日に有附水戸の湊朝早く出發したれども雨戸に錠のなき如く非今日中に夫婦して善き樣に取計らひを

とわらば又立戻るも給へと前後警き謹能て性急にも即座に出一本と鍋釜より外に喜び、取るものも取の波乘り舟に乘せらまでと庭前に霜除の

せり、是に於て清司水戸に殘りて庄吉を

して老夫婦をば暫く

ヨの兩人して種々の

を廻る旅商人婦人連

覆らず出來上りたれ

詐偽し込む樣今度は

九十九里を廻るゆる

女六人連れ犯せる罪

銚子に出で〳〵九十九

りて八犬傳に名の殘

○探偵

第五回　夫

血氣盛の安藤彌吉も

海を渡りて亞非利加

なれば心驚ずるを云

く左ればとて男子の

て復何時か來る可き

に夢みる如く唯茫然

來りけり

よくマア來て可ッ

たよ

とれ難が可愛き聲音

彌吉さん、れ前さん如

何か間違でもわたん

と問はれて詰きれ

れ難さん私や、私やア

とえ云ふにれ難は眞面

亞米利加を出立なさ

るのです

行着く先は亞非利加

と聞てれ難は餘りの

へ蒼冷むる許りに驚

何と被仰る彌吉ん、

が起りました

と重ねて問ふに彌吉

江作左右衛門より依

落もなく語り聞かし

妻を世間に曝かすは

ふ大した金になる仕

ずに危いみをそしや

いが金の欲しいのも

らのみとサヤとサア如